

第一回館山市議定会定例会會議錄（第三号）



一、昭和五十六年三月十二日（木曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十六名

一番 神田 守隆	二番 石井 謙
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一番 林 豊
二番 栗原 一雄	三番 近藤 好雄
四番 渡辺 昭夫	五番 伊藤 幸太郎
六番 押元 稔	七番 黒川 平治
八番 流山 源次郎	九番 石井 輝久
二〇番 石井 武敏	二一番 吉田 勇治郎
二二番 藤田 益治	二三番 菊井 敏博
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安澤 徳順	二九番 安西 益男
一、欠席議員 一名	
三〇番 山口 康	

一、出席説明員

第二号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十六年三月十二日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時開議

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十五名、これより第一回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

#### 行政一般通告質問

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、通告による行政一般質問を行います。

通告の方法等は昨日と同じであります。これより順次発言を願います。

七番議員古賀礼四郎君御登壇願います。

（七番議員古賀礼四郎君登壇）

○七番（古賀礼四郎君） 私は通告いたしました二点、すなわち教育関係と墓地の整備について質問いたします。

まず、第一の教育についてであります。現在ほど児童生徒の非行化、家庭内暴力、特に学校内での暴力問題が急激に増加し、生徒が教師に集団暴行を加えるという以前では全く考えられなかったことが社会問題として大きくクローズアップされ、現在開かれてる国会でも減税、福祉、防衛問題のほかに、教育の荒廃が重要問題として質疑され、教育制度そのものも考え直す時期ではないかと討議されております。

青少年の非行化は世界的傾向であり、欧米でもわが国以上だと言われているものです。いまの青少年非行の特徴は低年齢化、一般

化してきたことであり、たとえば自校を見ても以前は大学、高校生に多かったが、いまは中学生から小学校へと低年齢化しつつあり、他方、これまでは貧しい片親の家庭に起こりがちであったものが、両親そろって中流の生活程度である家庭の子供にまで頻発してきて、すなわち一般化、普遍化の傾向が見られる。つまり問題を起す子供は決して特殊でもなければ他人事でもなく、いつ足元で同じ事件が起きないとは限らない。わが町へ、家に火の粉が飛んでこないとは言えません。まさかと樂觀しているときではないのであります。

いまのところは、都会及び新興都市に多く、すなわち東京の都市五商では十四人の女生徒による暴力事件、また蓮花中学の番長グループが生徒たちから金をゆすっていた事件、また大坂の都島中学では警察が学校内に入り八人の生徒に手錠をかけて連行し、また三重県の尾鷲中学では二十五名の生徒が教師に暴力をふるい五十名の警官が出動するなど、数えればきりがなほ報道されております。

当館山市でも、このようなことが起らぬよういまこそ父母、教師いや市民全体が一体となって教育の問題に真剣に取り組まねばなりません。

現在の教育が進学という知識一辺倒に傾いている傾向があり、人間性の育成がおろそかにされているのが根源であろうかと思えます。教育の本質は、教師と生徒と父母の信頼感で生まれ、愛情に満ちていなければならぬ。すなわち単なる知識の伝達、語学の学習や計算技術の練習はできるかもしれないが、人間と人間の接触は起こりやうがない。つまり心と心の通い合いがなければ教

育とは言えないのであります。

いままた、家庭の空洞化ということが指摘されています。いわゆるマイホームを建て、入れものとしての家はりっぱであるが、その中は親子の心が通っていない。親はローンに追われて金をかせぐことに急がしく、母親までが働いている場合が多く、自然、家族の団らんの機会は少なく、家はただ寝るだけの場所になっている傾向にあります。

近來の親の特徴は、干渉強え型と放任無関心の両極に分化し、どちらの形も子供たちに非行をさせる原因となっております。だから、子供の健全な教育のためには、まず各家庭がしっかりと子供を育てなければならず、また学校内では先生たちが団結し、仲よく生徒の指導にあたり、校長のリーダーシップのもとに指導体制が一本化されていなければなりません。学校側の指導体制が不そろいであれば、生徒たちは先生を信頼できず、教師間のすきについて反抗の態度にでるものであると思います。

そこで、質問に移ります。まず第一点は、將來の館山の社会を構成する児童生徒の教育の基本方針を、進学率を考へて知識の面に主眼を置くか、または進学の面からいけば幾分落ちて、人間として調和のとれた育成を目指すか。どちらに主眼を置かれるのか。当市の教育の目的、方向づけをお示し願いたいと存じます。

次に、第二点は、PTA活動について質問いたします。

そもそも、PTAの本来の精神からすると、学校教育をする上において父兄と教師が一体となり学習面の強化、向上を図るのが目的でありました。しかし三十年以上時が流れてPTA活動がマシネリ化し、その本質である親たちが教師と向かい合って何をす

べきか、どうすれば教育がよくなるかという学習団体から離れ、教育環境の整備すなわち校舎の増改築の実現に行政当局に陳情、請願をする。また町内に寄付を募るなど学校行事の支援団体、行政への圧力団体化しつつある懸念が生じております。昭和三十三年に制定された義務教育諸学校諸施設国費負担法でも、施設の整備は行政の方の仕事とされております。

そこで、教育長に質問いたしますが、当市のPTAのあり方、また将来の望むべき姿についてどう考えておられるか、お聞かせ願いたいと存じます。

次に、第三点として、第二点と関係の深い教育委員会についてお尋ねいたします。

教育の荒廃を嘆く東京の中野の区民が教育をよくする会を結成し、教育委員準公選の条例制定を求める直接請求を起こして実施されたのが先日実施された準公選であり、教育が中央官庁、県、地方行政機関という縦の管理行政がまかり通り、教育委員会そのものがその承認機関となっている傾向があります。すなわち形がい化されている懸念があり、真の住民参加による何事をするにも子供の意思、住民の意思を尊重してもらい、現在の教育のあり方を見直そうとするのが中野の準公選制でありました。

そこで、質問いたしますが、小さな第一点として、市長は従来議会に諮られる前にいかなる選考基準で委員候補者を立てておられるか。また当市でこの準公選制を将来採用する意思がおりかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

次に、小さな第二点ですが、教育委員の活動及び委員会の審議内容などをもっとガラス張りに市民に広報する手段を考慮されて

いるかどうか、お尋ねいたします。

次に、大きな第四点として教科書の問題であります。この問題も現在国会で議論されているとおり、文部省の学習指導要領改定に伴って今年度から小学校、五十六年度から中学校の教科書が新しく採用されているわけですが、特に中学の社会科で大衆運動、デモ、団体交渉といった社会主義の問題が多く記載され、個人的権利の制限のない主張など、どう見ても左翼偏向としか言いようのない内容のものがおります。これはすでに文部省の検定に合格したものであり、当市の学校でも使用されないとは限りません。子供たちは教科書を金科玉条のものとしており、もちろん当地方の教育委員会ではこのような教科書は通過されないことと信じてますが、この点について質問します。すなわち当市の委員会では現在までどのような採用審査をなさっているか、業者等の売り込みはないか、この点、質問します。またPTA等の要望をどの程度反映されているか、現状を知らしていただきたく存じます。

次に、第五点の教員組合についての質問に移ります。現在安房地方の学校に新任された先生は、もちろん任意ではありませんが、殆ど全員が千教組に加入しておられ、納める組合費もかなりの負担となっております。すなわち北海道と福岡県など活動の強いところでは、教員の組合費は月額で一万五千元、年額にすると十八万円となっております。東京でも年間十万円を超えております。こんなに組合費を取られるのであれば、その金を参考書の購入及び先生としての教養、趣味を高めるための費用に向け、望まれる教師像の勉学に使われた方がよいと考えますが、いかがでしょう。か。教育委員会ではこの点どう考えておられるか。先生の組合活動に

ついでどうお考えになつておられるか、お尋ねします。

次に、第六点の学校教育内容の充実について質問いたします。

当市では、この教年間各年度予算の二〇％前後を教育施設の整備に力を注がれたので、各学校の建物そのものは他の市町村に比して遜色ない、いやかえって先行しており、りっぱです。これは教育関係者の方に対し大いに評価いたします。しかしこの間、増改築の方に力を注がれたためか、学力及び体育等の内容面について幾分遅れを来した感があります。もちろん内容の良否を云々することは、何を基本にするかむずかしい問題であります。私は義務教育である小中学校の教育と、義務教育でない高校との教育の目的の性格を明瞭に区別し、内容の向上を図らねば効果的でないと考えます。

そこで、質問いたしますが、現在の状況では、進学のためという目的のため、学校教育法に定められているそれぞれの学校の目的に合った教育が十分実施されていないのではないか。この点はっきりした目的づけをされているかをお尋ねしたいと思います。

最後に、七点目の質問としまして、短大、専修学校等の将来構想についてお尋ねします。

当市は現在、高校以上の学校教育法による学校は、船形にある館山高等技術専門学校を除いてほとんど皆無といつてもよい状況であります。一年間に約千五百名以上の高校生が都会に流出するのは、当市の発展のため、また親の経済的負担の増大、子供たちの従前と異なる都会での環境の変化による心的労苦は数しれないものがあります。本市の人口の増加と教育、文化の向上のためにぜひともこれら学校を誘致することが必要と考えますが、市長はこ

の点につきどうお考えでしょうか。将来構想を立てておられるかまたいままですの件につき誘致運動をされたことがありますか。お聞かせ願いたいと思います。

以上、教育の関係につき種々質問いたしました。いまこそ市民全体でこの問題に真剣に取り組み、全国に先がけて模範となるような市にせねばならぬと思うものであります。

次に、大きな第二点、墓地の整備についてをお尋ねいたします。市営の霊園設置の意思の有無については、さきの定例議会で石井武敏議員から質問され、市長はそのときの答弁は、いまのところないとのことでした。しかし当市の従前からある墓地について見ますと、雑然としていてどこが通路か、どこまでが個人の区域かも明らかでなく、墓地とはいまだに薄気味の悪いところで、おぼけの出でくる感じがいたします。そのようなことから墓地に行く人も少なく、子供たちの祖先崇拜の念も薄れていくのではないかと考えます。

横須賀市の市営霊園が昨年七月第一期工事が完成し、来年度も引き続き二期工事に入ります。この地区は海軍、米軍の弾薬庫として使用されていた普固屋地区というところですが、山を削り、草花を植え、ベンチを置き、休憩所もあって、墓主はもちろん周辺の住民もレクリエーションの場所として楽しく弁当を開いておりました。墓石の形も工夫してつくっており、なにか芸術公園という感じでございました。

幸い、当市には開かれていない山地が多々あり、海をながめることのできる土地がたくさんあるわけですから、そこに市営の霊園でも計画され、館山に永住し墓地を持とりとを考えている新住民

が他の地へ流出するのを防ぐ意味においても必要と考えます。旧市街の墓地の整理と市営霊園について、現在の市長のお考えを承りたいと存じます。

以上、教育関係と墓地について種々質問いたしました、御答弁により再質問させていただきます。終ります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 古賀議員の御質問にお答えをいたします。

大きな教育問題についての御質問のうち、私に御質問がございました分について御答弁申し上げます。

教育の基本理念の問題でございますけれども、教育の基本的目標につきましましては、今日社会経済の進展の中で、物質的な豊かさが増しまして、人間として心の豊かさや潤いのある生活が強く望まれている現状に立ちまして、こうした動向を背景といたしまして、豊かな人間性と健やかな心身を育てる教育の充実を目指すことにあると考えております。

小さな第三点の教育委員の任命に關してでございますが、教育委員の任命は人格高潔で、教育、学術及び文化に關し識見を有する者のうちから私が判断をいたしまして、議会の同意を得て任命をいたしているところでございます。

さらに、御質問のございました準公選制については、現在の教育委員会法では適法とは言えないというのが公式の見解でございますので、当市においては実施する考えはございません。

短大、専修学校等の誘致についてでございますけれども、現在首都圏の大学等は施設の拡充、環境の整備、改善等が思うように進まず、新設移転を希望しているものが多いというふうに聞いて

おります。しかしまた一方、希望しながらも建設資金の調達、用地の手当て、教職員の通勤あるいは移住等移転を困難としている問題も多くあるというふうに伺っております。当市といたしましては、現在まで誘致運動をしたことはございませんけれども、これらの事情を踏まえまして、進出希望のものがございましたら、積極的に誘致をしてまいりたいと考えております。

大きな第二点、墓地の問題でございますが、これも前回の議会では御答弁申し上げましたように、現在館山市におきましては約三百二十の墓地がございまして、このうち近年経営許可されました三霊園等についてもまだ十分余裕がございまして、現在の人口、世帯構造等から考えまして、墓地は不足をしていないというふうに考えておりますので、市営霊園の設置は現在考えておりません。以上、答弁を終ります。

(教育長安田豊作君登壇)

○教育長(安田豊作君) 教育問題について御質問の第二、PTA活動について申し上げます。市内のPTAは幼稚園十、小学校十二、中学校五つの全校に結成されております。各PTAともそれぞれ学級及び地域より選出された委員を中心に学級PTA、学年PTA並びに全校の組織を形成して、学校教育への協力活動をしております。と同時に、成人教育団体としてみずからの研修にも努めております。いずれもPTA本来の目標に沿って健全、また良識的に運営されているものと考えております。

教育委員会の活動について申し上げますが、教育委員会は毎月定例会を開き、必要に応じて臨時会を開催しております。議案はすべて公示されるほか、広報及び回覧等で市民に周知するように

努めております。また委員会主催とか、後援等の各種行事、会合に教多く委員全員が出席して、直接市民との話し合いの場を持って教育行政に反映しているというのが実情でございます。

教科書問題について、いろいろ問題があると御指摘の点がありました。新聞、その他ではいま非常な問題を投げかけておるようになってございますが、当市においては国が決めた三年に一度の採択更新を行ってあるわけですが、これは文部省の検定を受けた教科書の中から、地域の実態に適合した内容のものを採択することにしております。

安房地方では八つの教育委員会がありますが、八つの教育委員会が共同いたしまして教科書採択委員会を設置し、各教科ごとに五名ずつの専門調査委員を委嘱して、その研究調査による報告を受けて採択を決定しているというようなことで、その間、業者の売り込みとかいうようなことは極力排除して、こういうものの入り込めないような対策は十分考えております。

なお、PTAあるいは教職員の意見については、この期間に教科書の展示会があります。その展示会による意見を聞いて、専門委員の研究の中に織り込んでいく。こういうのが実態でございます。

教員組合についてであります。安房地方における教員組合については教員の組合加入は任意であります。現在校長、教頭の管理職を除く一般教職員九百七十九名が教職員組合安房支部員として加入しておりますが、本年度新規採用者を含む十六名が非組合員、組合に加入してありません。安房地方における組合の活動は健全であって、間違った行動はとっていないと、こういうふうに

判断しております。

学校教育内容の充実につきましては、教育課程が改定されて小学校では本年度から、また中学校においては五十六年度から新しい学習指導要領による教育が実施されるわけでございます。そして、その改定の趣旨であるところの豊かな人間性の教育を踏まえて、基本的な生活習慣の育成と基礎的学力の充実を図るということに重点を置いております。

なお、学校種別による目的づけといえますか、そういうことについてどうだ。こういう御指摘でございますが、幼稚園が全地区にあるということから、この地域は幼、小、中という段階的な教育が行われているというように判断しているわけでございますが、幼稚園においては、これも一つ問題になっております文字の指導と数の指導を幼稚園でやるか、やらないかということがありますが、幼稚園教育要領では、幼稚園段階では自然に覚えることにとどめると、積極的に指導をしない。これは一部の父兄の要望なんかがありますが、そういうことでなくて、幼稚園の教育要領に即して子供の基本的な生活習慣の育成といえますか、そういうところに重点が置かれております。

小学校においては、教科の指導のもとになるところの基本的な生活習慣と基礎的な学習態度の育成というような点が重点になると思えますが、そういう点を踏まえて行われております。

中学校では、教科の基本というよりな面で指導が行われております。

そういう点で、校舎の建築と同時に学校統合の問題も踏まえているのは、こういった御指摘の議論に立っての学校教育内容の充



実というものを基本に置いての施策であるし、推進であると、こ  
ういふふうに考へて進めておる次第でございます。以上。

○七番（古賀礼四郎君） 再質問させていただきます。

まず第一番の、市長さんにわかりきったようなことをお尋ねし  
たわけです。要するに、現在の教育が進学面一辺倒になつておる。  
人間性としての人間教育がなされてない。小学校に入つたとき  
から大学に入るための勉強をさせられている。これは学校教育内  
容の充実と関連した質問ですけれども、結局、学校教育法の十七  
条、三十五条に小中学校のそれぞれ目的と位置づけが書いてある  
わけで、心身の養成に大事な時期であり、情操教育に力を入れて  
人間としての生活教育をしなければいけないとなつております。

それから、四十一条には、高校は中学校における教育の基礎の  
上に、心身の発達に応じて、高等普通教育及び専門教育を行うと  
いうことで、高校生に対しては社会人として出る人、実業高校に  
進む人は実業の方面を一生懸命勉強し、普通科に進む人は大学に  
進むために一生懸命勉強しろという目的がそれぞれあると思ひん  
です。

ですから、小中学校のときには、なにも大学に進むための勉強  
だけでなく、もっと人間性のある、りっぱな将来市民となるよう  
な情操豊かな教育をしてほしいというのが私の念願であります。

特に高校になりますと、高校の場合は市立ではありませんから  
別になりますんですが、社会のために有為な人間を形成し、有為  
な人物を養成するということで、大いに高校教育の内容は、社会  
に出る人の実務と、普通科に進む人は大学に進むための勉強に力  
を入れていただきたい。このように一番、四番、六番の関連につ

いては思ひものであります。

それから、中学から高校に進むときに境界線上に、要するに普  
通高校、たとえばここですと、安房高のような学校です、  
進学をする場合に中学三年のときの模擬テストと、偏差値はあま  
り問題にされておられませんようですが、要するに旺文社がつく  
たり、早稲田ゼミがつくったりする模擬試験のテストと偏差値に  
ばかり目がついて、本当にその子の性質がどの方面に進んだら  
いかというようないことが十分に先生と親と本人の間に話し合いが  
なされていないような気がする。あくまでも境界線上にある子です。

ですから、たとえば水産高校、農業高校に進んだ学生、実業科  
に進んだ学生が一年たつて、自分の進むべき学校ではなかったと、  
私は安房高にしかかった、普通科の学校にしかかったんだけれど  
も、先生に押しつけられて、押しつけられてというのは悪いんで  
すが、親と本人と先生が話し合いをしているんですから、決して  
学校の押しつけではないわけですけれども、少し冒險心があつて  
受けてみたらよかつたという非常に不満が多い。高校生の一年生  
で登校拒否をして学校をやめるのがものすごく多いわけです。全  
国的な平均から見ますと、普通高校に行つてる者でも七割が不満  
である。実業高校に行つてる者は二〇%以上不満を持って、自分  
が現在行っている学校が自分に向いているかどうか選択するのは  
非常に困つておるといふ例がございます。

ですから、この点、本当にその子のためを思つて、学校の境界  
線すれすれの点数だけでなくて学校を決めてやるようにしないと  
非常に不平が出てくるような気がいたします。

私最近、二件相談を受けました。実業高校に行きたくない。普

通高校に移りたいということを言われたわけですが、ちょっと話が別になります。私は教育委員でもないし、三軒先に吉田先生があるから、そっちに行きなさいと言ったんですが、教育委員というのはだれも知らないわけです。これは後でまたお話しします。

それから、一番目の質問ですが、学校の裁量時間というのを今度取り入れるようになりました。昨年度より安房郡市の小中学校では独自の裁量時間を日課表に位置づけて、ゆとりと充実の教育に取り組んでおられます。五、六年では週四時間を自由裁量時間に回わせと言っております。この自由裁量時間を特別教育の方を主体として回わしていただきたい。数学、社会、理科こういう進学のための勉強ではなくて、道徳や公德心を身につける、生活実践を身につける。こういうふうな特別教育活動の方に自由裁量の時間を回わしていただきたい。これは要望でございますが、この点について、自由裁量時間というのは安房教育委員会、館山教育委員会、自由裁量時間というのはいくつもの安房教育委員会の中においては、自由裁量時間をそういうりっぱな人間の育成、公德心それから体力こっちの方に力をいただきたい。その点どうお考えになっているか。教育委員会がどうしようとお考えになっているかを承りたいと思います。

さらに、本年四月から中学校の英語が四時間から三時間になる。英語というのは選択科目であります。日本人はもともと語学が不得手とするところです。国際感覚の欠如というのはこの語学の不足にあると思います。ですから、語学の四時間を三時間にするとするのは私は間違いであって、せっかく当市はイギリスやオース

トラリアから交換教師を呼んでおられます。このためにも三百三十万予算に計上されているぐらいで、教師間の交流も図り、語学の向上を図っておられると思います。ですから、自由裁量時間に英語を必ず入れていただきたい。こう念願するものでありますが、この点についてもどう考えるか。

それから、当市内にはピアノとか、習字とか、ソロバンとかこういう趣味の、教養のための塾とは違っていて、いわゆる進学のための学習塾、これが私塾でいっぱいできております。その私塾の教について調べられたことがありますか。どのくらいあるか、内容的にどういうことをやっているか。私はこの私塾は意味がないと思います。ただ学校でやることを先に勉強させているだけで、学校に行って生徒は同じことを習う。教育の先行だけやって、内容の向上には一つもなっていない。親の経済的負担も考え、子供は昼は学校に行って、夜は塾と勉強勉強で遊んでいるひまがない。これではいい子供ができないと思うんで、私は塾なんかは必要だと思いますが、こういう塾が現在蔓延している状況であります。館山市でもかなり見受けられます。こういう塾の実態について把握されておるか、その点お尋ねいたしたいと思います。

もう一つ、一番に関連しての問題ですが、非行が現在非常にふえております。館山警察署の調べたところでは、八百六十二人五十五年度補導の数が、これは館山市の学生の約一割弱になります。年齢からいうと十五歳から十八歳までが一番多いということで、やはり中学校の高学年と高校生に該当しますが、非常に非行が多い。喫煙を主として、非行性交とか、館山の場合には軟派的な非行が多い。暴力事件にまでは至っておりません。しかし火のない

ところに煙はたたないといえますけれども、実際新聞とか、学校ではまだ発表されておりませんが、中にくすぶっているものはかなりある。こういうことで、非行についてのそういう件数等十分に警察等とも密接に連絡されて完全に教育委員会が把握されているかどうか。こういう点をお聞きしたいと思います。

それから、次の二番目のPTA活動に移ります。先ほども述べましたようにPTAの本来の目的からかなりはずれている。現在学校の支援団体、バザー等を開いて金を集めてそれを学校長さんに寄付する。そうすると、いいPTAの会長である。こういうことになるわけで、それでおまけに学校長さんとPTAの会長さんが行政当局に陳情、請願するというようなことは、これはどちらかといいますと、行政側の手落ちにもあるわけです。本当は義務教育の無償の原則及びPTAの本質からいきますと、もっと行政当局がそういう学校の施設面とか、何かの費用の面については無償の原則があるんですから、これによって十分めんどり見てやらなければならぬ。めんどり見が悪いものですから、PTAが金を集めるための活動とか、行政当局を刺激する活動とかそちらの方の主に行事の団体になっておりまして、教育内容をいかにしてよくするかということになってない。こう思うんです。

先月末、PTA主催で第三中学校で教育座談会を行われておりますが、こういうことはいいいことだと私は思います。片方で小学校ですか、図書購入のためバザーが開かれて図書を学校で購入されていたという、大体千名以上の学校だと三千冊以上の本が必要なんです。現在千冊ぐらいしかないから図書室に本を買おうということとPTAが働いておられるわけですが、これも私は教

育内容をよくする上においてはいいことだと思えます。

しかし、あまりにも学校の支援団体として、いいPTA会長は金を集めることである。こういうことになりまして、ほかのPTAの会員が非常に負担が重くなりますし、当然寄付等を募られた場合迷惑していることもあると思います。この点で、PTAの現在のあり方が戦後三十年過ぎておりまして、本質から離れてきている。この点注意を喚起してPTAの本質に戻っていただきたい。こう思うのであります。

それから、三番目の教育委員会のことでございますが、これは先ほども述べましたのであれですが、情報公開の原則に従って議事録を公開なさっていると教育長いとおっしゃいましたが、いままて住民からの閲覧請求みたいなものがあつたか、回数がございしますか。その点でお尋ねいたします。どういふふうに利用されておるか、議事内容について住民がどういふふうに理解されておるか、何回ぐらい行われたか。そういうこともお尋ねしたいと思います。

それから、次の学校内の教育の充実これは一番の質問と非常に関連してどこが一番か四番かわからないんですが、たとえば、この一番レベルの高い安房高校、当市の小学生、中学生は安房高校に入るべく一生懸命勉強しているわけです。しかしこの安房高校も最近五年の入学率とかを見ますと、どんどん落ちてきております。国立大学には二十七名入っております。駅弁大学です。昔の東大とか、京大とか旧帝国大学に相当するところには皆無であります。現在三百五十名前後毎年卒業しておりますが、百五十名が私立大学を含めまして、短期大学を含めまして進学しており

ます。あとの五十名が就職しております。それであとの百五十名ぐらいいはこの学校にも入れないで浪人しております。約半分が毎年浪人しております。これが四、五年たまっておそらく五、六百名になるのではないかと思います、どこの学校にも入れないという生徒が出てきておるわけであります。

学校の先生にお伺いしたところ、日東駒専といまして、日大東洋大、駒大、専大こういところと比較的入れたものが、これもすてに入れなくなってきた。こういうようなことで、私は一番に申し上げましたように進学率を問いません。ですから、小学校、中学校においては十分進学を考えないで情操教育をしていただき、高校に入ったら勉強と徳育、スポーツを大いにやっていただきたい。

安房高というのは昔から伝統のある学校で、進学率もよかったです。スポーツも盛んでした。全国優勝も柔道、剣道、水泳こういうこともやっております。現在の特徴からいいますと、何にもなくなってきた。進学率も悪い、スポーツも弱い。全然館山を代表する学校ではないんです。そうなりますといけません。高校に入りましたら目的をはっきり分けて大いに勉強し、大いに鍛えていただきたい。そういう教育をしなければいけない。こういうふうに思うものであります。

それから、組合活動についてであります。現在愛媛県、香川県、岐阜県、栃木県、徳島県の五県は日教組に加入しております。これは四国を中心とした九州方面ですけれども、加入してありません。

要するに、いま任意だとおっしゃいました。任意ではありません。

任意ではありますが、社会通念上つき合いとして日教組に入らないとぐあいが悪いというのが現状で、さつき教育長が言われましたようにほとんどの先生が加入しておられるわけです。

私、日教組に加入するということは、要するに労働組合の一つの団体でありまして、これは社会党につながっておるわけです。先生が社会党に入る必要はないんです。全部がなくて、先生が社会党に入らなければいけないのかと思うんです。もっと本場の任意制をもって、新任された場合どこにも入りたくない人は入らなくてもいい。ほかの教員組合、日本教職連盟組合——日教連こういうものもあります。こういうものに入らしてもいいわけです、本場に先生の任意にしていたきたい。ただおつき合いで千教組の安房支部に入らなければいけないということはないと思います。

これは卑近な例で申しわけないんですけど、組合活動に非常に先生が多忙でありまして、学校の時間を削いでまで組合活動に出なければいけない。デモに参加しなければいけない。こういうことが子供の教育に反映しているわけです。ほとんどの暴力事件で殴られている先生は日教組に入っている先生です。若い先生なんです。校長先生、教頭先生殴られておりません。そういうようなことで、なにもおつき合いで日教組に入なくてもいいんじゃないか。

経費的な面で調べて見ますと、毎月五千円納入しております。館山で五千円。年間六万円平均的です。もっと上になるに従って高いし、大体一割組合費に納めております。そのほかにプラス二千円これは中央の日教組に納めておられるわけです。ですから月額五千円、年額六万円。こういうものをやはりさつき言いまし

たよりな、もっと子弟のための教育、自分の知識を向上させるための教育これに使っていただきたい。こう思うんです。

あくまで、私は右に傾けとは言いません。現在左に傾いているわけですから、右に傾けとは言いません。現在国会では右と左が一生懸命やっております。だけれども、私は教育はあくまで中立でなければならぬ。真ん中の中道を走ってもらわなければならぬ。教育について政治色は除いてもraitたい。これが私の本意であります。

二月七日に千教組安房支部のボーリング大会をやっております。ちようど子供たちは試験の真っ最中で頭痛はち巻き、学期末試験それから進学試験の真っ最中。これに六十六名の先生が参加しております。ボーリングやっておられます。これはレクリエーションでいいと思います。だけれども、ちよっと時期が悪い。片方の自分の教えている学生が一生懸命ねじりはち巻きで勉強しているのに、これが房日新聞にまで出ているわけです。私は隣の息子に言われた。「先生はいいな、ぼくら一生懸命勉強しているのに」私はっとした。先生というのは行動するのにも、団体の組合活動の一つだからやるというんではなくて、もっと実際に真剣に子供たちのことを考えてもらいたたい。でない、愛情の欠如によって毀られるような結果になるんだ。こう思います。

時間がないんで先に進みますが、短大、専門学校について、これは一般の大学や短期大学になりますと、講師がアルバイトできないということと館山ではちよっと無理ではないかと思えます。しかし各種学校、専門学校の場合については教師に資格が要るわけじゃありませんし、専門の知識があれば教師もできるわけで

す。そういう学校だったら館山でも持てるんではないか。

毎年、千五百以上の高校生が出ておまして、その中に女子が七百五十名ぐらいいるわけです。この七百五十名の女子も東京、千葉にみんな行ってしまふということでは、非常に親の経済負担、一人いま十万円かかります。親の経済的負担と館山のいい教育環境に育った高校まで、女子なんかが東京やなんかに行きますと、非行化する傾向がある。こういう点からせひ私は各種学校ぐらいは誘致してもらいたたいと思います。

時間がございせんので、第二の墓地の問題に移りますが、なにしろ当市も古い都市でありますから、墓地は雑然としております。この市役所のすぐ裏にも墓地がありまして、皆さん墓地を背負って仕事をなさっておりますが、区画も整然としておりませんし、古色蒼然たる墓地であるわけです。これもやはり定住圏構想とか、田園都市構想とかお持ちになるんですから、その中にきちんとした、整然とした墓地をやはりつくり、一角に集めるとか、まだ墓地は余裕があると市長さんおっしゃいましたが、新しい住民が館山に住み込むためには、やはり墓地がないと離れていくと思ひます。結局、九州や北海道から来ている人間が館山に住み込むとしましても、向こうに墓があるとどうしてもしばらく館山に居て、後は帰ろうというような気になりますので、当市にとって人口流出の面でマイナスであると、こう考えます。

それから、先ほども言いましたように、墓地をきれいにすることによって子供たちが墓参りをして非常に喜ぶことになり、祖先を崇拜することになるんではないか。こういう気がしますので、ちよっと御答弁いただきます。

○教育長（安田豊作君） いろいろたくさん御指導いただきましたが、御質問の点についてお答えします。

中学の高校進学について問題を持つ子供はいかということ、これは問題がないとは思っておりませんが、現在のうちに九八％以上の進学、しかもみんな合格というように考えた場合に一部の子供に希望でない不満を持つ子供が出るんじゃないか、その点については当事者の中学校の教務を中心として、各学校でいろいろ悩んでいると同時に、進路指導委員会といいますが、研究会というような会を安房郡市全体の教員でつくりまして、いろいろ研究をして漸次そういうものの解消には努めておりますが、まだ一部には考えられると思います。なおこの点については御指摘のような点で研究を進めたいと思います。

それから、自由裁量時間があるんで特別教育活動に、これは文部省の方針でありますし、私どもも当然そう考えております。学校もそういう方向でいろいろ研究を進めていると思います。

それから、中学校の英語が四時間が三時間になりますが、四時間に直せ。これはいまおっしゃった第二の問題とちょっと食い違ふような点も感じますけれども、私どもも四時間で英語の力をつけるような方向でやるようにしたい。こう考えております。

それから、学習塾の問題については一、二年前調べましたが、いまはちょっとデータは持っておりませんが、これについても問題点は考えております。

それから、非行の子供が多いんじゃないかということでございますが、これは学警連といいますが、学校警察連絡協議会というのをもちまして、お互いに連絡をとり合って情報交換をし、その

対策、指導については万全を期すようにしております。さらに今後、実際には御指摘のようにあるんですから、問題解決をしていかなければいけない。こういうふうに考えております。

それから、PTAの問題で、金集めが多いじゃないかということとでございましたが、いまのところ、いわゆる純然たる寄付集めというようなことについてはないように考えておりますが、ただバザーというものが多い。バザーそのものは不用品の交換という意味で、金集めということよりは、本質的にはそういうことから発生したバザーそのものはいじやないかということでしたが、年々とそういうことが各地で行われまして、そうではなかったぞと、目的が不用品の交換ではなくて、金集めが目的になってきているんじゃないかということで注意を数回にわたって学校及びPTAにしております。だんだん直っていくんじゃないかと。

それから、陳情とかそういうことでやるのは、行政のめんどろ見が悪いんじゃないかと、こういうことですが、裏返せばそういうことになるかと思いますが、欲張ればきりが無いわけで、そのところが学校と私どもの話し合いでできるだけ、要するに校舎その他の修理、その他ではかなりのところまでいま進めておりますので、それ以上は欲張りの点ではないか。その点はお互いにも少し話し合いを進めて協調してやるようにしたい。こう思います。

まだありますが、また機会を見てお答えしたいと思えます。

○議長（五十嵐 昇君） 古賀議員に申し上げます。時間がまいりましたので、これで終了させていただきます。

以上で、七番議員君の質問を終わります。

次に、二番議員石井謀君御登壇願います。

(二番議員石井 謀君登壇)

○二番(石井 謀君) 私、すでに質問申し上げてあります農家にとって大きな悩みの一つでございます。水田利用再編対策についてお伺いをいたしたいと思います。

水田利用再編対策言いかえれば米の生産調整のことを意味することと思います。名称こそ異なっておりますが、この政策は昭和四十五年から実施され現在に及んでおりますが、この目標の数量が年々かさみ、三年前の館山市に対する昭和五十三年産の転作目標は二百二十六・六ヘクタール、昨年の昭和五十五年産の目標三百九ヘクタール、わずか二カ年後の目標で八十二・四という増積と聞いております。

この大幅にふえた目標にもかかわらず、担当課そして農業委員会、農協等各種農業団体の御協力の結果、目標の三百九ヘクタールをはるかにオーバーして三百六十・四ヘクタール、率にして一・六・六倍という好成績で達成されたことは、関係者の御労苦を高く評価するものでございます。

しかしながら、五十六年産の目標は約三百八十九ヘクタールで前年より約八十ヘクタールの増積でございます。この五十六年産の目標面積は、旧市いわゆる館山、北条、那古、船形この水稻の潜在作付面積この合計が約四百ヘクタールあるわけでございますが、この地域の全部の耕地に匹敵するものを転作の対象にしなければ達成できないという指示がまいっておるわけでございます。反面、いままでの奨励補助金そして計画加算等は減額され、意欲を持っていた農家が一人減り、二人減るというような現状は見

逃せない事実であります。また、こんな厳しさの減反政策では農家では生活できないから、この減反政策には全面的な協力はできないという声を数人から私は耳にしております。しかしこれは国の政策であり、全国的な問題であります。また農家自体にとりましても問題があるわけでございます。要するに食糧制度の確保ということもありますので、極力協力をしなければならぬと考えておりますが、当市といたしましてこの問題についてどう取り組んでいかれるのか、三点について御所見をたまわりたいのであります。

そのうちのひとつといたしまして、転作目標が年々増加する中で五十六年産の転作目標をどう進めていくのか。特に八十ヘクタールの増積に対する目標を何に置いていくのか。

二つ目、転作作物を定着させ産地化を図るため、市単独事業として展示圃の設置計画をするお考えはないかどうか。現在転作目標が非常に好成績に終わっております現在まで。これは土地基盤整備に伴う通年施行、要するに土地改良をやる場合には一年を通してやるというような事業がいままで毎年あったわけでございますが、これはもちろん通年施行ですから稲作をいたしてないわけであります。そういうようなものが相当あった。この一、二年後になりますと、これがばたと減るというように感じがいたしておるわけでございます。こういうふうにこれが一、二年先になって土地改良の通年施行が大幅に減った場合、それにかわるべきものを何かこのへんで考えなくちゃいけないではないかというふうに思われてなりません。そういう意味合いから展示圃の設置をいたしまして適地適産物の試験研究が必要であらうと思っております。

りますが、御所見をたまわりたいと思います。

三番目といたしまして、特定作物特に飼料作物として認められる水稲の青刈りの処理の効率化についての対策をお伺いしたいのであります。

飼料作物として水稲の青刈りを転作物として、これが年々増加しておると聞いております。この転作物は畜産農家のみならず全般的な農家がこれを行っておると思います。畜産農家の方々の青刈り処理についてはそう大きな問題はないと思います。しかしそれ以外の農家がこの青刈りをした場合には、なかなか刈り取った後の処理が非常に困難であるというような考え方からいたしまして、市が仲介の労をとって酪農組合等と呼びかけて、これを処理してもらうような方法はないかどうか。あるいはまた市がそういうような中に入って心配していただけるかどうか。こういうようなことを考えておるわけでございますが、以上三点について御質問申し上げますが、御答弁によつては再質問をいたしたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井 議員の御質問にお答えをいたします。

水田利用再編対策についての御質問でございますが、第一点は転作目標が年々増加していく中で、五十六年度の転作計画をどう進めるかという御質問でございますが、水田利用再編第二期対策における転作の強化は本市の農業にとりましてきわめて厳しいものでございます。今後、地域性を生かした転作の推進に配慮をいたしまして、転作営農の生産性向上と定着化を基本に推進してま

いりたいと考えているわけでございます。

五十六年度の本市に示された目標面積は三百八十八・九ヘクタールでありまして、前年の目標面積三百九ヘクタールに対し一二五・八六の増となっております。積み増し面積は七十九・九ヘクタールでございます。

五十五年度の転作実績は三百六十・四ヘクタールで、達成率は一一六・六％でありました。転作物の主なものは飼料作物六〇％、野菜一六％、その他二四％となっております。今後、特定作物でございます飼料作物の振興とあわせまして、本年制度改正で新設されました団地化加算制度、地域振興作物加算制度等の対象となるように推進してまいりたいと考えております。

第二点は、転作物を定着させ、産地化を図るための市単独事業として展示圃の設置を計画する考えはないかという御質問でございますが、展示圃の設置は水田の乾田化とあわせまして、五十五年度は飼料作物でございますソルゴーを二カ所設けましたが、今後、地域の農家と協力をいたしまして、有利な作物の検討と同時に展示圃の設置を検討してまいりたいと考えます。

水稲の青刈り処理の効率化についての御質問でございますが、昭和五十五年度の飼料作物としての青刈り稲は十七・九ヘクタール実施されております。現在畜産農家の稲わら不足は深刻化しておりますので、天日乾燥とあわせまして半乾燥によるサイレージ貯蔵を検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○二番(石井 謙君) 再質問をいたします。

私は、第一番目の転作目標が年々増加するということで、五十



六年産の転作計画はどういうふうに進めていくかということですが、ただいまの御答弁で、今後地域性を生かして転作の推進に配慮して、転作営農の生産性向上を定着させるというよりなお考えのようでございますが、これはもちろんそういうことになると思います。

私は、この問題についてただいま飼料六〇％、野菜が一六％、その他が二四％ということでございますが、こういうようなままの五十五年度の実績についてふえた分を各農家に上乗せをしていくんだというふうな考え方でいいかどうか。その点についてまず一点お伺いします。

○経済部長（山田俊康君） 御指摘のような個々の農家への転作指導ということになるかと思いますが、転作指導にあたりましては、市長がお答え申し上げましたように単に面積の割り当てだけでなく、特定作物特に有利な作物、麦、大豆、飼料作物あるいは永年性のあるもの等を、それに加えて本年度から新たに出ております団地化の促進というような方向で、農家所得の向上のために努める方向であつていきたいということを進めております。

○二番（石井 謙君） それはよくわかるんです。農家はこの転作というような国の指示がなければ米をつくるのが一番いいんです。いま米の一俵の価格が約一万八千円、大体八俵ぐらいとれますから、十四、五万になるわけです。飼料作物をやりましても、五万円程度の奨励金がきましても、その後のものが要するにほとんど金になってないというふることがございます。これを反対した場合には食糧制度廃止という伝家の宝刀を抜かれた場合にも全く

困っちゃうということ、こういうような形でみんなやってくれるんですが、それでは転作の目標の配分方法これについてお伺いします。

○経済部長（山田俊康君） 昭和五十五年の潜在水稻作付面積これは現実の問題といたしましては共済の引き受け面積でございます。五十五年産の水稻共済引き受け面積に加えることの五十五年の転作実績、実際に転作している実績を加えます。それを潜在水稻作付面積といたしまして、それから各農家の保有米の面積、保有米は種もみ等を含めまして一人当たり百五十キログラムということと考えております。それを考えまして、それから五十五年の基準反収、館山市の平均反収ということになります、で割ったものを差し引いた残りの面積、結局潜在作付面積から保有米面積を引いた残りに目標の配分基準をいたします。なおそれにつきましてもその残りが四アール以下の農家につきましては、それを除外しました。四アールしか残っていないということは割り当て面積が結果的には一アール前後になってしまいますので、そういうものについては除こうというようなことが農政審議会でも答申を得ましたので、そういう方向で配分をいたしました次第でございます。

○二番（石井 謙君） よくわかりましたが、私のところにも五十六年産の減反目標が示されておるわけなんです、こういうような形で転作目標を示したんだという会議が各地区ごとに農業協力員さんですか、あるいは農家組合長さんか、そういうような方々を集めてやられたということは聞いておりますが、農家組合長そういうような人ばかりではないと思いますが、部落的によつては隣保班順にやってくるような農家組合もあるわけです。そういう

よりなことてなかなかそういうような方法が各農家の間に徹底してないという点があるわけです。それらはひとつ広報でもいいし、またパンフレット等をつくって協力を呼びかけると同時に、そういうような内容についてのことをぜひお願いしたいというふうに考えます。

それから、二番目の転作物を定着させ、産地化を図るということについて、市の単独事業として展示圃の設置を考えていないかどうかということですが、これは一つの例を挙げますと、神戸のレタスが全国的に有名になっておるわけです。いま約六十ヘクタールのレタスをやっておるというように聞いておるわけですが、非常に収益も上げておる。私が申し上げるまでもなく、レタスというのは一たん一時期に水を張らないというといいいレタスが次の年にできないというのが現実らしいんです。そういうことでレタスをやりますと、勢い水稻をやりたいというようなことを繰り返しているわけなんです。そこで、ハト麦等水を使って米以外のものを何か展示的やって、そうして指導していけば、そういうような形にやっていかないとなかなか大きな面積の処理は不可能ではないだろうかというふうに考えます。これは希望程度にとどめておきます。

それから、最後の飼料作物の、要するに青刈りでございますが、先ほど市長さんの方の御答弁で半乾燥によるサイレージの貯蔵、天日乾燥とあわせてやる計画ということでございます。私はこの問題は、畜産農家はこれはこういうような形でいいと思うんです。貯蔵して置くことはいいと思うんです。一般農家が転作面積を指示されて、どうしても何アールやらなければいけないという形の

中で、農家は米をつくるのが一番慣れているし、手間がかからない。そういうようなことで米をつくって穂が出ないうちに青刈りでやってしまおう。そういう場合の処理に困っているわけです。ですから、私は酪農組合等呼びかけて、こういうようなものをもらってもええないかどうか、親戚に酪農家がいなくてこの処理に困っちゃう。ですから、天日乾燥なんかして若干の値段で買ってもらうようなことをしていただければ、なおいというふうに思います。そういうふうな点について酪農組合等と連絡を、仲介の労をとっていただけないかどうか。この点についてお伺いいたします。

○経済部長（山田俊康君） 畜産農家あるいは酪農組合等との連絡の労をいけません。農協等にも営農指導というようなものを置いて指導もしておりますし、農業団体であります農協とも連絡を密にしながらよりよい方法で進めてまいりたいというふうに考えております。

○二番（石井 謀君） いろいろいままでの生産調整あるいは転作のことで非常に好成绩で終っているということは、先ほど申し上げたように圃場整備の關係が非常に大きな肩がわりをしておるわけです。いままでの安房中央土地改良区の東部、西部地区の区画整理がもうでき完了したわけです。そうしますと勢いさつき申し上げたように転作するものに非常に苦慮するというふうに考えますので、市としていままであったように思います。園芸係そういうような展示圃をやるにして、何にしても係がなくてはなかなか農協にお願いする、あるいは普及員にお願いするとかいうことで市自体がやっぱりやらないと、聞きに行けば教えてくれるかも

しませんが、市が中心となつてやらないとなかなかこの問題は解決できないというふうに思いますんで、ぜひひとつ農産課の中に園芸係というものを設置するよりなことにこれは要望をいたしておきたいと思ひます。

以上で、終ります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、二番議員君の質問を終わります。

次、一八番議員流山源次郎君御登壇願います。

（一八番議員流山源次郎君登壇）

○一八番（流山源次郎君） 私は、質疑に先立ちまして、去る三月五日に半澤市長が施政方針を説明された中で、非常にあの出発当時の苦しい財政から、初めて半澤市政らしいいろいろの施策を打ち出したという点に対して、本当に心からお祝いを申し上げます。と思います。またこれに対しますところの半澤市長さんの努力はもとより、これを協力いたしました執行部また職員等の協力に對しまして心から敬意を表するものでございます。

また、忘れてならぬことは、財政が苦しいということでも、無償であつたものが有償になつても、館山の市民はこれに對しましてじつと耐えまして、今日まで協力してきたことに對する陰の力を忘れるはならぬではないかと私は思うのでございます。

私は、次の三点について御質問を申し上げます。

第一点は、国保税値上げや幼稚園入園料等の新しい徴収等により、館山市の地区民の平均収入の低さから将来どうなるのか、その展望をお聞かせ願ひたい。

二点目といたしましては、事務担当職員による市政の方針等に関して執行部との意思の疎通を欠いた点はないか。たとえば、二、

三の例を挙げますれば、半澤市政になられてからの数年、非常にごみ等が多く出たしまつて、衛生課を中心いたしました非常にこの線につきましては、この問題にみな頭を悩ましておるわけでありまふ。

たまたま、漁協関係におきまして県の方から補助金を出すから、漁協の広場を利用いたしまして、漁協から出るごみ等をそこで処分してはどうかという話がありまして、漁協の理事兼市会議員でございましたので、私が頼まれて市を担当課にまいりましたところが、とんでもないことをしてくるなど、素人が勝手なまねをされては困るということ、もちはもち屋にまかしてくれということで断られてしまつたわけでございますが、それが同じ半澤市政の中において職員がかわりましたとたんに、今度は各地区の部落ごとと焼却炉をつくつてごみ戦争に協力してもらいたい。こういう正反對の矛盾したような答えが返つてきたというのが現実でございます。

それからもう一点は、交通安全の件でございますが、私の家の店の前が一二七号線が走つてございまして、この一二七号線のちやうど私のところがカーブを描いておりまして、館山市でおそらく一番見通しの悪い地点ではないかと思ひますので、右側の方が大体二十メートルぐらい、左側が十五、六メートルぐらいだと思ひますが、見通しが悪いのでそこに警察の方が横断の歩道の線を引いたわけでございます。その線のところに通学路としての標識も立てたわけでございます。

小学生の低学年のお子さんが毎日通りというところで、わずか十メートルそこそこの国道でございますが、非常に交通が激しいと

いうことでお母さんたちが朝急がしいのにわざわざ子供たちを送って来て、その道を横断するまでそこで待っているというような状態が続いて、ちょうど私のところに何とか向こう側にミラーをつけてもらうように交渉してくれということでも所管課にお願いしたところが、すぐに市の担当職員がまいりまして現地を見ましてちょうどミラーをつける個所が個人の住宅にかかるということでもその方とお話してくださいと、その方の了解を得ればいつでもつけましようということでお帰りになつたので、その前の住宅の方とお話しまして了解を得まして市に申し込んだわけでございます。

ところが、いつになってもミラーができないということで、家庭のお母さんたち、また区長等もあれだけお願いしてもまだできないのかという矢の催促がございましたので、再度所管にまいりましたところが、ちょうど配置がえがございました、もと調べました職員が配置がえになりました、新しい職員が見えになってその方が言うには、ミラーの設置は車両のものであると、人間の交通の安全のためのもではなくて自動車のためだと。また国道の向こう側にミラーなんかついたら、ミラーに映る影が小さいから子供が錯覚を起こして車がまだ遠くにいるんだろという事で、むしろミラーをつけたために事故が多くなるということで、これも今度ははねつけられてしまったのであります。

私といえども、非常に責任を感じまして、それから十年間毎日朝児童が登校するときに、私が船形にいる限り交通補導に立って今日まで来たわけでございますが、何かこの点につきまして執行部の考え方と職員に違いがあるような感じがいたしました。

ので、この際この件につきましてお聞きしたいと思います。  
第三点といましては、館山市の廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例についてお尋ねいたします。

この問題は、先ほどの保全公社の理事会がございまして、その説明でも、館山市にともかぜぎの家が多いと、その中で家を空けておる人が多いので人数割りによつては非常に不公平だと、従量制にすれば家でほとんど使用しなかつた人も公平な汲み取り料金ができるという話でございましたので、私も一理事といたしましてこの件を了いたしましたわけでございますが、そのときにたまたま自分の家の一年間の汲み取りの状況をお話して、私の家は偶然にこうなつたんだろが、こういう間違いがあつたから、せっかくの市の好意で平等が不平等になつてしまふという心配があるために、この点について十分の配慮を図るように入れたわけでございますが、再度この議会にこれが提案されておりますので、慎重の上にも慎重を期して、せっかく市民のために平等を考えたのが不平等にならぬようにお願いいたします、三点の質問を終わりたいと思いますが、答弁によりましてまた再質問することがございますが、よろしくお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 流山議員の御質問にお答えをいたします。

国保税の値上げや幼稚園入園料の新しい徴収等によりまして、館山市の地区民の平均生計収入が低いので将来どうなるのか、その展望を聞かしてもらいたいという御質問でございますが、御案内のように最近におきます地方公共団体を取り巻く厳しい状況の中で、限られた財源を有効かつ適切に活用しながら市勢発展を期

さなければならぬわけですが、五十六年度におきまして国保税、幼稚園入園料等につきましても、その受益者に対しまして応分の負担をお願いすることとしたわけですが、公共サービスの提供によって特別の利益を受ける方から、平等の原則上受益の限度内におきまして公共サービスに要する経費の一部を負担していただきまして、より充実した行財政の運営を図ってまいりたいと考えているところでございます。

また、将来におきましても、受益者負担を原則として財政状況を勘案しながら行財政の運営の健全性を確保してまいりたいと考えているわけですが、御指摘のような低所得者層に対する配慮もその都度いろいろな減免、その他の制度があるわけでございますので、その都度検討をいたしながら考慮をいたしてまいりたいと考えております。

第二点の事務担当職員による業務の執行等につきまして、執行部との意思疎通を欠いた点はないかという御質問でございますが、私どもは事務の執行について事務担当職員と執行部との間におきまして意思疎通を欠いたことはないと思っておりますけれども、なにもぶんに行政の執行に当たりますのは生身の人間でございますので、その間に絶対にそういう疎通がなかった、あるいは誤解、了解が十分でなかったというような点もあるかと思っております。今後そうしたことをないように十分職員に趣旨を徹底させまして業務の執行に当たりたいと考えております。

第三点の廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正に伴いましての御質問でございますが、し尿の処理の料金につきましての御質問でございますが、あるいは御要望の意味も含めての御質

問でございましたが、し尿処理料金を従来の人頭割りから従量制料金への変更をいたしたいと思っているわけですが、その料金の算出の根拠になりますものは従事する職員が読み取ってまいりますメーターでございますので、現在の十八リットル刻みの計量器を十リットル刻みのものに切りかえまして読み取りやすくなりました。間違いないようにいたしますし、また料金を十リットル単位に改めまして誤差のないようにいたす所存でございます。従事職員につきましても保全公社を通じてこの趣旨を徹底を図りまして、十分問題の起こらないように気をつけていきたいと思っております。

以上、答弁を終わります。

〇一八番（流山源次郎君） いま、市長さんからの説明で十分了解はしたわけですが、実は鉾山市の中で国保税等の問題は十分善処していきたいというお話でございますが、一部そのままにしておいても、ほかの税の税率が変わってまいりまして、今年と同じ給料だといっても保険税が上るといふ矛盾があるために、数年先の問題になると、現在では何とか協力できても将来は協力できないというのが、漁業関係者の収入なんか見ましても最低保障が九万円台ということはこの四、五年変わっていないんです。その後漁がいいとか、悪いということですがそれが上ったり、下ったりするので、この漁業関係を見ますと、ここ数年来は料金がふえたと、年々ベースアップしているというのではない。また建築請負業の方たちが、そのまた下請の工夫なんか給料を見てもあまり上ってないと、そうするとせっかく市が一つの行政をするのにも、そういった方たちがなかなかしようにしてもなかなか協

力できないような、賃金ベースが頭打ちになっておるということを考えて、これも将来のために一応研究課題としていただきたいということをお願いいたします。

それから、市の職員と執行部の件は十分わかりました。

ここで、教育委員会の委員長もごさいますし、教育長もおられるのでお聞きしたいんですが、ミラーの設置の件につきまして、ミラーは先ほど説明したとおり、これではだめだと、歩行者のためでないということで設置が取り消された時点で、今後は教育委員会の趣旨だということで、子供さんが登校するときにわずか十メートルのあそこを通過してしまえば、後は歩行者天国で楽に行けるものを、その十メートルを通過してはいかぬと、五百メートルぐらい大回わりをして国道沿いに学校に行けということで教育委員会の通達が追い打ちをかけるように出たんです。結局これは市の方の意向でないと言っているが、やはりミラーではだめだということ、わずか十メートルの地点で渡ってしまえば楽に行けるものを、国道沿いに五百メートル回わって小学校の正門前に来て通れという教育委員会の決定はちょっとわからないんですが、教育委員会で正式にその決定を出したものだと思いますが、ミラーに映る影が小さいから危険だということですが、いまの子供さんは学校でいろんな交通安全の警察なんか来て、交通安全教えているので、ミラーの設置されたところは子供さんが十分ミラーを見て、自動車の影がなくなるまで動かないんです。子供が一番渡るのに子供さんが安全な態度をとっているんです。いまだに教育委員会としてはそのわずか十メートルの国道を渡してしまえば、ミラーを設置されたり、安全に学校に行かれるのに五百メートル

大回わりして学校に行かなければならないのか。その点をお聞かせ願います。

○教育長（安田豊作君） 通学路については学校といろいろ協議しておりますので、再度検討してみたいと思いますが、教育委員会の方針としては信号を渡るといいうのを一番最優先に考え方としてはおりますので、たぶんそういうことだと思えますが、もう一度実地に検討してみたいと思います。

○一八番（流山源次郎君） わかりました。ただ、いままで学校の方から教育委員会の方の通達でそこは通っていかぬということで、私が十年間そこを渡すということは、むしろ考えによっては私は市の決定に対して違反をしているというよりな状態でございまして、その違反に対して地元の警察官は黄色い帽子を持って来てくれたり、腕章を持って来てくれたり警察の方が協力してくれる。それからいま一点は、警察の方ではあそこに十年間も立ってこれたからご苦労さまということと表彰状をくれて、いまここに持っています。そういうような状態で、市でやっていると私が違反して、警察の方では表彰すると、ちょっと矛盾がありますが、その点は十分考えまして、家族の十分な安全とか、各学校に通うのに便利のように取り計らっていただきたいと思います。

先ほど、市長さんとしても、メーターの件でございまして、細かいメーターによって十分配慮を図るということとでございしますが、この前の保全公社のときにも、現在の取りつけメーターが目盛りを細かくしても坂で傾斜して汲み取った場合とか、道のかしいところとかそういう場合には公社の職員も正確な記録がいくらということとは出ないということ、いままでの長い間の経験で便

槽の中を見れば公社の職員もある程度どのくらいあるということ  
がわかるという説明だったんですが、私のところが教室をやつて  
るためにいままでも従量制にされておったんですが、生徒のいない  
一月と八月が特別によけいになっておると、われわれが家にいな  
くて生徒がいなかったと。それから汲んだとき家のような便槽は  
よくないということで、水を流してくれということを取りに来た  
ときに言うわけですが、われわれが居たら水を流すんですが、水  
をバケツに三倍やればもう四十五リットル出ちゃうんですが、い  
ないときは向こうが声をかけても水かけないわけですから、帰っ  
て見れば汲み取っておりますが、半分ぐらい残っております。  
そのデータを出して見ると、水をこぼさないでわれわれの留守の  
ときが一番多いんです。水を流したときの方がむしろ少なくなっ  
ておる。結局、一月と八月の生徒がいなくてわれわれが旅行なん  
かした留守をしがちのときが量が一番よけいだ。こういう矛盾が  
たまたま私の家で先ほど説明したとおり出ております。これが人  
数割りの線で汲み取りの職員がいかげんにそういうことをやら  
れたら大きな問題になるんじゃないかなという心配があるんです  
が、おそらくそういうことはないと思います。

それから、メーターが十リットル単位ということで、二リット  
ル以上のものになってくれば三リットルでも十リットルに取られ  
てしまうということになると、せっかくいまままで働きに行  
ってメーターを少なくしようと考えておった人が、むしろ従量制  
になつたらよけい取られてしまうという心配も出てくるわけです  
ので、こういう点は十分了解して、皆さま方に慎重の上にも慎重  
を期していただきまして、清掃の事業に万全を期していただきた

いことをお願いいたしまして、私の質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、一八番議員君の質問を終わります。  
以上で、通告者による一般質問を終わります。

散

会 午前十一時四十九分散会

○議長（五十嵐 昇君） 本日の会議はこれにて散会いたします。  
次会は、明三月十三日午前十時開会とし、その議事は一般議案  
及び補正予算案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問

